



## 巻頭言

乳腺外科 准教授

よしだ みわ  
吉田 美和

2024年夏、オリンピックシーズンが到来しました。振り返ってみると、当初東京オリンピックの開催が予定されていた2020年から4年が経ち、新型コロナウイルスの流行後の混乱から医療現場もようやく落ち着きを取り戻しつつあるように感じています。

乳腺外科では、女性が発症するがんの中で最も多いといわれている乳がんの診断と治療を行っています。私達が携わっているがん診療も新型コロナウイルスの流行に大きな影響を受けました。がん検診は不要・不急とされ一時中止となり、新型コロナウイルスの感染から患者さんを守るために、がんの治療を今行うべきか延期すべきかという議論が交わされました。その後、コロナ禍でのがんの診断や治療の遅れが、結果としてがん患者さんの生存率に影響を与えたことが多くの研究論文で報告されています。このような報告を受け、当科では現在、コロナ禍以前と変わらず迅速なスケジュールで乳がんを的確に診断し、最適な治療を行うことに力を注いでいます。また、時間的な制約のある患者さんのニーズに応えるため、土日診療も行っています。

コロナ禍以降、病院はさまざまな困難を経験してきましたが、それを共に乗り越えてきた医療スタッフ間のチームワークはより強固なものになりました。乳がんの患者さんには乳腺外科のスタッフだけでなく、さまざまな診療科や職種、さらには地域のクリニックや在宅ケアサービスの方々など多くのスタッフが関わります。乳がんの治療は長期にわたることが多く、治療中の病状・家庭や職場での役割・ライフスタイルなどの変化に伴い、治療方針や人生の多岐にわたる場面で難しい選択を迫られることがあります。当院では、そのような患者さんを多面的にサポートするため、2021年に乳腺外科医・看護師（女性外来/化学療法/緩和ケア/退院支援）・薬剤師などの多職種スタッフからなる乳腺診療チームを結成し、定期的なカンファレンスなどを通じて連携を密にし、チーム医療に積極的に取り組んでいます。



院内では依然として、感染予防のためのマスク着用が義務付けられているため、マスクでお互いの表情が見えず、医療スタッフとのコミュニケーションに不安を感じている患者さんも多くいらっしゃると思います。そういった不安や緊張を和らげ、患者さんが安心して診療を受けていただけるように、私たちはチーム一丸となってサポートを続けてまいりたいと思っています。



当院の乳腺チーム（左から2番目吉田准教授）



### 第124号のトピックス

- ・巻頭言（乳腺外科）
- ・リハビリテーション室紹介
- ・胎児心臓超音波検査の新たな一歩
- ・セタイベント開催報告
- ・面会制限の一部緩和について
- ・編集後記

## リハビリテーション室紹介

リハビリテーション室 作業療法士 / きむら つとむ  
木村 努

2024年4月よりリハビリテーション室の責任者を務めることになりました木村努と申します。今年度のリハビリテーション室は新入職員4名を含め、理学療法士13名、作業療法士7名、言語聴覚士1名の合計21名体制となりました。

土日祝日週日化のもと、リハビリテーションも早期に開始できるように休日での体制も整えております。主治医とリハビリテーション科医師の指示に基づき、発症または手術後早期から必要度に応じた急性期リハビリテーションを実施しております。リハビリテーション科医師とともに、診療科・センターと定期カンファレンスを開催、主治医・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー等と情報共有し、リハビリテーション計画の変更を確認しながら、効果的なリハビリテーションを提供できるよう連携しております。



新入職員（左から）：北島、金子、河原、長谷部



入院患者さんから、「リハビリって何するの?」と聞かれることがあります。入院前の生活状況とは異なり、入院期間中は活動の範囲や運動に制限がかかることがあります。制限がかかる期間が続くと、次第に、筋力の低下などを招くおそれがあります。その身体機能の低下を防ぐために、早期にリハビリテーションを開始させていただいております。患者さんの症状や安静度に合わせて、リハビリテーションのプログラムを組みますので安心して受けてください。



病棟看護師との合同勉強会の様子

認定療法士（脳卒中、呼吸器、循環器）も在籍し、日々のリハビリテーション業務に従事する傍ら、がんのリハビリテーション研修、呼吸認定士や心リハ指導士などの資格取得、学会発表や研究論文投稿、昭和大学学生の臨床実習指導、他部署との合同勉強会やトランスファー講習会の開催など患者さんの安全性に関わる職員教育にも取り組んでおります。

患者さんの入院期間を短縮し、早期に在宅生活へ復帰できるようチーム一丸で取り組んでまいります。今度ともリハビリテーション室をどうぞよろしくお願いいたします。

皆様、こんにちは。人工知能（AI）はますます私たちの生活に身近な存在となってきていますが、医療においても AI 技術の活用は急速に進んできています。昭和大学医学部産婦人科学講座では、胎児の生まれつきの心臓病を超音波検査で出生前に検出する AI システムの共同研究開発を行っています。

産科で行われる超音波検査には、妊婦健康診査時に行われる「通常超音波検査」と胎児形態異常や胎盤異常の評価を目的とした「胎児超音波検査」があります。生まれた赤ちゃんの3~5%が何らかの疾患を持っていると言われていています。軽微なものから命に関わるものまで幅広く、全てが生まれる前にわかるわけではありません。しかし生まれる前にわかる事で、生まれた後に問題となる症状への対応を考えたり準備したりすることができる場合があります。



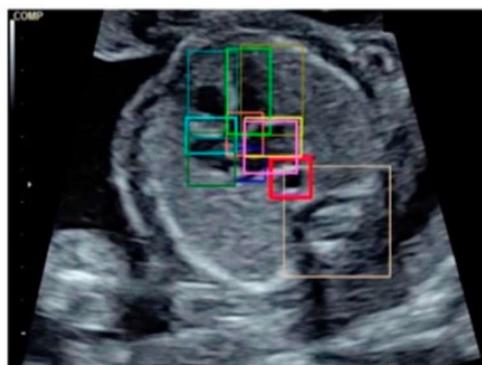
胎児超音波検査の中でも心臓超音波検査は、心臓の構造や機能を詳細に評価する検査です。しかし、専門的な知識と経験が求められるため、検査者によって技術や診断率にばらつきがみられます。そこで、AI 技術を活用することで、より正確な判断を可能にすることを目指しています。生まれつきの心臓病のなかには、出生直後に治療が必要なものもあります。病気を早期発見することで、適切な管理をすることが可能となり、赤ちゃんとお母さんの負担が少なくなります。

また、当院では私たちが開発に携わった AI システムが実際に臨床現場で運用されることを目指して、現在実証実験を行っています。あくまでも AI は医療者にとって代わるものではなく、補助的な役割を果たすものではありませんが、適切に活用することでより医療に貢献することができるものと考えています。

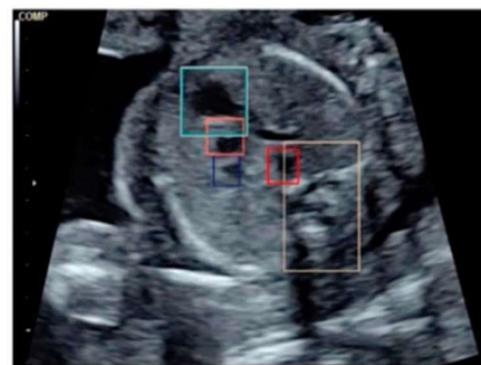
当院周産期センターでは常に最新の医療技術を導入し、患者さんに最良の医療サービスを提供することを目指しております。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 心臓超音波検査の画像



(a) 4つの部屋がみえる断面



(b) 3つの血管がみえる断面

## 七夕イベント開催報告

6月27日（金）から7月7日（日）まで今年も1階ロビーに笹飾りを設置しました。

患者さんやそのご家族をはじめ、来院された方々の書かれた短冊で華やかな笹飾りとなりました。



今年の笹飾りの様子

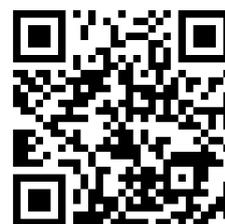
## Pick up

### 面会制限の一部緩和について

新型コロナウイルス感染症の感染法上の類型が5類に移行してから面会制限を緩和しています。このたび、令和6年7月1日（月）より面会制限を一部緩和しています。

詳しくは当院ホームページをご覧ください。

引き続き、院内ではマスク着用と感染対策にご協力をお願いしています。



URL) <https://x.gd/iP8qs>

編

8月に入りました。今年の夏もとても暑いですね。皆様夏休みはいかがお過ごしでしょうか？こまめな水分補給、睡眠、バランスの良い食事を心がけ、熱中症や疲労に気をつけて猛暑を乗り切りたいところです。

集

そしてオリンピックも始まりました！セーヌ川での開会式はご覧になりましたか？新種目も気になります。コロナ禍の3年前は東京での開催でしたが無観客試合、今振り返ってみるともう私の生きていく間に日本でオリンピックが開催されることはないかもしれません、残念です。でもテレビで楽しみたいと思います！パリと日本の時差は7時間（サマータイム）、主に放送は日本時間で夕方から翌朝6時まで、と考えると睡眠不足になりそうです。熱中症予防には辛い時間なので夜更かしはほどほどにして、選手たちの溢れるエネルギーを糧に、今日も手術室で一日頑張ります。

後

記

たなか のりこ  
麻酔科 田中 典子



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院  
Facebook ページ